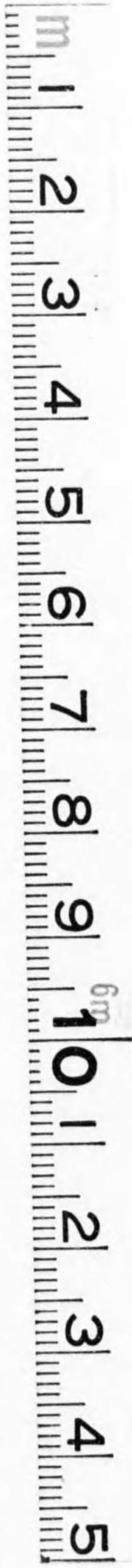


春
字
的
帖

特257

159



始



特 257
159



春草句帖

長谷川春草



昭和四年八月版

春草ノ傳

春草は長谷川氏。名は金之助。明治二十二年八月十九日東都芝區柴井町に生る。幼にして孤、心情の多感なる一因を茲に求むべし。年少にして俳諧を知り、時に新體詩流行の機運に會し之が作數編ありといへども勞する事

寡くして止み、爾來ひたすらにこの道を辿り、專念風流を句に具現して晏如たり。師事するは渡邊水巴先生、藻の花同人諸賢には詩心成長の縁を得、孤雲も亦羣遊歸する處あり、以て今日の傾向ある所以とす。

細道も惠方とさきけば日影かな

初雀ひとつあそべる青木かな

初刷やくさぐさわかつ奥と店

人影も灯かげも宵や松かざり

蘭玉やそよろこ影もさだまらず

元日の月すぐ落ちぬ板廂

狂ふ身や獅子舞なれば日の下に

餅の上
に橙まろし
夕霏

月代やをさめし
松を土のうへ

春淺う草萌る草のうすあかり

ふと在ればふとある愁草萌る

春曉の引窓一つあけしばかり

燕や日の淋しさにいづこまで

家二つかけろふ路をへだて哉

咲垂りて藤うやうやし夕まぐれ

雨の藤花こまやかに相寄れる

枯萱に日はかげれども雲雀かな

花の晝夫婦はものゝ淋しけれ

葉子出生

をみなうまるゝ花の眞晝の薄曇

夜は二よた夜よ日は三み日か東風の強き哉

葉子出生

子や東風に赤き帽子をかぶりける

春の夜や子をあゆまする古疊

わが童女櫻見にきて眠りけり

春月や高き梢のおそざくら

篁の近きはそよぐ霞かな

花曇ふるさこびこのきたりけり

花御堂花はくもりに匂ふかな

出代や同じ假り名にまたひこり

櫛たたう櫛の宿世の遅日かな

麗かなれば涙落つ
暮れ方の櫻見てゐる道化かな

獨り居の夏になりゆく灯影かな

六月の日に晒したる手足かな

合歡の葉に日は登りつゝながし哉

厨明し梅雨入の月や出ぬらむ

水すまし水も梅雨なる曇り哉

短夜の葉一つもいで吹いてみし

たはれをは夜をよきものに祭かな

水中花水さらさらとさしにけり

訪ひ寄ればひごも夜を憂く薄暑哉

浴衣著てまた横たはる病かな

卯の花や同じ愁をいくそたび

月涼し晝のまゝなる雲ひこつ

牡丹見にゆくこ云ひしが病みし哉

飛ぶ雲や仲夏の夜半の薄明り

灯取蟲竹の落葉と掃かれけり

涼しさや葛こきほぐす椀の中

かげ口は寂しきものや水羊羹

うつむけば人妻も夏めけるもの

芥白子や眞晝の風をまのあたり

梅の實や一つびとつ夕明り

吹き馴れて河鹿をよそや河鹿笛

梨あまし晝寐のあごのうつゝなく

落る日や泳ぎのぼれる濤の上

藻の花や夕べの雲のこぼれまらず

つり葱雨夜の軒のひくさかな

またもこの獨りとなりぬ氷水

浴衣著て父なれば子を抱きけり

梅雨寒や子にやる菓子を紙包

夏足袋やものゝまぎれに蛭の裾

一筋に萩へ吹かるゝ蚊遣かな

はろばろこ夜ゆく鳥や氷水

青芒路いにしへに似たりけり

大森移居

暑き日や葉ひとつ移る蝸牛

古家にひさりの月日秋の雨

汐の香も秋めくや日傘たゝみけり

雁渡りつくしぬ澄める風一つ

攝待や雨にぬれたる眞木一駄

岸釣や隅田石濱の日の下に

竹河岸の竹のしづかや渡り鳥

船 蟲 や 佃 住 吉 松 一 木

砂 に 來 て 鳴 る 汐 白 し 天 の 川

沙魚焼くや深川晴れて川ばかり

燈籠や松は静かに葉をかさね

あしたづも淋しく廻り燈籠かな

團栗やごんに落ちたる二つ三つ

秋風に吹きたまる砂と遊びほけ

塗盆の曇るや柿のつめたさに

また人がゆく垣外の秋日かな

水霜や茄子の古木の束ね捨て

霧ふるこ二枚しめたる障子かな

人往きて久しくなりぬ秋の風

栗焼いてゐる人は人の雨夜かな

秋深しわが子やさしう抱かるゝ

妻洗ふ家の墓こて小ささよ

墓拜む身のめぐり萩暑きかな

秋風やわが墓までのひこの墓

炭つぐやつぐく日和のかれ芒

あたくかや落葉し盡きて木一本

枯草に鳥は鳥とし小春かな

冬の日や老木の裾の杉の苗

霜掃くやものゝ影なき土あらは

掃かれずに凍てたるものや寒雀

小寒や枯草に舞ふうすほこり

枯菊は昨日抜きたる日南かな

濡縁のさびしき晴や敷松葉

木兔が夜な夜な落す木の葉哉

つちくれといづれ静かや寒雀

煮こぼりや日影ののぼる厨棚

短日やしろじろ濁る牡蠣の水

挽きためし炭の匂や夕鴉

知りつくす抜け裏さびし年の市

くりすます幼き祈ありにけり

灯の下に凍てたるものゝ姿かな

坂ひとつ下りても見たる霜夜哉

しぐるゝや二人が前の路二つ

窓しめて雪空遠き助炭かな

青木をやしづる、雪こき、にけり

雪ながら風に吹かれぬ枯かづら

やどり木のあはれ撓める深雪哉

いごし子のうもれてまろき蒲團かな

窓は灯は町の霜夜こなりにけり

雪ゆくや雪にうもるゝ死を思ひ

325
323

昭和四年八月三十日印刷
昭和四年九月五日發行
春草旬帖
定價壹圓

著者 長谷川金之助

發行者 倉田健次
東京市赤坂區青山南町五ノ七五番地

印刷者 津村福章
東京市神田區三崎町三ノ一四六
一區印刷所

發行者 素商書店
東京市赤坂區青山南町五ノ七五番地

終

